

1 研究の趣旨

現在、「society5.0」という概念に代表されたデジタル化の進展が進む一方で、人類がこれまでに経験したことのない新型コロナウイルス感染症の世界規模でのパンデミックというように、子供を取り巻く状況は複雑かつ多様化してきている。このような将来を見通すことが困難で、正解がないとされる時代に、子供たちに未来社会を切り拓くための資質・能力を育成し、問題解決者へと育てていくことは、学校教育の重要な役割である。

そこで、小学校学習指導要領解説総則編にあるカリキュラムマネジメントの一つ「内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと」に着目し、教材の内容の関連はもちろん、「教科等の枠組みを踏まえて育成を目指す資質・能力」がどのように関連していて、その結果「学習の基盤となる資質・能力」とどのようにつながっていくのかを明確にしながら授業実践を行うことにより、子供たちに未来社会を切り拓くための資質・能力を育成できると考え、以下のように取り組むことにした。

2 研究の概要

- (1) 資質・能力分析表と教材関連表を基にした、各教科や教材で育成を目指す資質・能力の関連を意識した教材研究
- (2) 授業を充実させるための視点と具体的な手立て
 - 視点1 教材との出会いの工夫（導入）
 - 手立て1 課題設定の工夫
 - 手立て2 発問の工夫
 - 視点2 未知から既知への学びの発展（展開）
 - 手立て3 問い返しの工夫
 - 手立て4 意図的指名によるコーディネート
 - 視点3 既知から未知への学びの連続性（終末）
 - 手立て5 自己内対話を深める振り返りの工夫

3 成果と今後の課題

- (1) 研究の成果
 - 資質・能力を関連付けることで、汎用的な能力の育成を意識しながら授業づくりができた。
 - 子供たちが発揮している見方・考え方が、教科の枠にとらわれず見取ることができるようになってきた。
- (2) 今後の課題
 - さらなる教材の開発が必要である。
 - 時には単元の入替えも行うため、どの教科を中心として他教科と横断させるか、年度当初には見通しを明確にもたなければならない。